

二国間交流事業 セミナー報告書

令和4年4月20日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[代表者所属機関・部局]

金沢医科大学・医学部

[職・氏名]

客員教授・古家大祐

[課題番号]

JPJSBP220208807

1. 事業名 相手国: 韓国 (振興会対応機関: NRF) とのセミナー

2. セミナー名

(和文) 第19回日本韓国糖尿病性腎症セミナー

(英文) The 19th Japan-Korea Diabetic Nephropathy Seminar3. 開催期間 2022年3月17日 ～ 2022年3月17日 (1 日間)

4. 開催地(都市名)

大津市(オンライン開催)

5. 相手国側セミナー代表者(所属・職名・氏名【全て英文】)

Ewha Womans University College of Pharmacy・Professor・Hunjoo Ha6. 委託費総額(返還額を除く) 1,066,087 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または 日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	30 名	0 名
相手国側参加者等	33 名	0 名

参加者リスト(様式B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在等、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を本委託費で負担した場合となります。

8. セミナーの概要・成果

- (1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況等。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載して下さい。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。

旅費は執行せず、全て WEB 会議費用に執行したが、研究交流計画の遂行に支障がなかった。

- (2) 学術的価値(本セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

日本・韓国の研究者から、糖尿病の発症、糖尿病合併症の発症・進展予防に関する研究成果が発表され、今後の日本韓国共同研究に繋がる成果を得た。

- (3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

今回は、ZOOM開催にて会を行ったが、それぞれの発表会のち、懇親会が行えないため SpatialChat (スペイシャルチャット)を介して、交流を図った。

- (4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

糖尿病性腎臓病からの末期腎不全、慢性透析療法への導入は、わが国のみならず韓国においても第 1 位の原疾患であり、それに対する新たな治療戦略も発表された。今後、トランスレーショナル研究に繋がれば、世界中における糖尿病性腎臓病からの末期腎不全、慢性透析療法への導入の低下に繋がる。

- (5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取り組み、成果)

それぞれ大学院生が主たる発表を行う会になってきたため、当初の約 20 年前から世界に通用する若手育成の目的を達成できつつある。

- (6) 将来発展可能性(本セミナーを実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

19 回にわたり、それぞれ日本、韓国にて糖尿病性腎症セミナーを開催してきた。当初は、2 施設(滋賀医科大学、Ewha Womans University College of Pharmacy)だけの交流であったが、参加施設も増え、テーマも腎臓病に加えて肥満、糖尿病、SLE など含まれるようになってきた、今後もますますの発展が期待できる。

- (7) その他(上記(2)～(6) 以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記述してください)

Debra Dorotea¹, Daisuke Koya², Hunjoo Ha¹ ¹Graduate School of Pharmaceutical Sciences, College of Pharmacy, Ewha Womans University, Seoul, South Korea, ²Department of Internal Medicine, Kanazawa Medical University, Ishikawa, Japan. Recent Insights Into SREBP as a Direct Mediator of Kidney Fibrosis via Lipid-Independent Pathways. Front Pharmacol 2020 Mar 17;11:265. doi: 10.3389/fphar.2020.00265. eCollection 2020